

教科(科目)	家庭(家庭総合)	実施学年 (履修規定)	第2学年 必修
単位数	福祉科 2単位	教科書	家庭総合 生活の創造をめざして(大修館)
		副教材	家庭科トータルデータ (教育図書)
科目の目標	人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する知識と技術を総合的に習得させ、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。		
目標達成に向けての取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の健全な発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させる。</li> <li>・生活に必要な知識と技術を習得し、家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度の育成を図る。</li> <li>・家事支援に必要な基礎的知識と技術を習得し、適切かつ安全に支援ができる能力と態度の育成を図る。</li> </ul>		

◇ 進度

月	単元	学習内容・項目・活動等	評価方法・項目等	評価の規準等
4 5	生活を営む ・衣生活を設計し実践しよう	1 衣生活をみつめる 2 健康で個性的な衣生活のために ・衣生活の計画 ・被服の材料 3 被服をつくる(エプロンの制作)	・授業観察 ・ワークシート ・進捗表	・被服の成り立ち、人と被服の関わりについて理解している。  ・積極的に制作活動を行おうとしている。
中間考査(内容把握、衣生活の成り立ち、被服の材料、ミシンの扱い方等)				
6 7		2 健康で個性的な衣生活のために ・気持ちよく着る工夫 ・安全に着る ・自分らしさの表現 3 被服をつくる(エプロンの制作)	・授業観察 ・ワークシート ・進捗表	・被服整理の意義について理解している。 ・洗濯の方法や漂白、しみぬき、保管と収納、安全性について理解している。  ・積極的に制作活動を行おうとしている。
期末考査(内容把握、被服整理の方法、安全な被服、エプロン制作のポイント等)				
8	夏季休暇	・自らの生活を見直し、課題を見つけ衣生活の整理、食生活、住生活の管理を行う。		
9 10		・手縫いの方法(まつりぬい、なみぬい、半返し縫い、ボタン付け等)	・授業観察 ・ワークシート ・課題提出	・積極的に課題に取り組んでいる。 ・課題がきちんと期日を守り提出できる。
中間考査(内容把握、手縫いの方法等)				
11		・家庭科技術検定(被服4級)	・授業観察	・技術検定に向けて積極的に取り組むことができる。
12	子どもを育てる	1 子どもの誕生と母体の健康について知ろう 2 子どもの成長・発達と生活について知ろう	・授業観察 ・ワークシート ・意見発表と相互評価	・子どもの誕生と母体の健康について関心を持ち、理解している。 ・子どもの成長・発達について理解している。
期末考査(内容把握、子どもの誕生と成長発達等)				
1		3 親になることを考えよう 4 子どもの人権と福祉について考えよう ・保育実習	・保育実習 ・レポート ・ワークシート ・授業観察	・実習に意欲的に取り組んでいる。 ・感想や考察などをまとめることができる。 ・児童福祉について理解している。
2 3	住生活を設計し実践しよう	1 住生活をみつめる 2 健康で安全な住生活のために 3 住空間を描く 4 これからの住生活を考える	・ワークシート ・授業観察 ・意見発表と相互評価	・住生活に関心をもち、住居の機能、人間と住居の関わりについて考えようとしている。 ・健康や安全に配慮した室内環境の整備について理解している。 ・平面図が読み取れ、ひとり暮らしの住空間が設計できる。 ・よりよい住環境を整備するために調査・研究したり、発表したりすることができる。
学年末考査(内容把握、児童福祉、住生活の管理等)				

## 評価の観点及び趣旨

### ① 関心・意欲・態度

人の一生と家族，子どもの発達と保育，高齢者の生活と福祉，衣食住，消費生活などについて関心をもち，その充実向上を目指し意欲的に取り組むとともに，実践的な態度を身に付けている。

### ② 思考・判断

人の一生と家族，子どもの発達と保育，高齢者の生活と福祉，衣食住，消費生活などについて見直し，生活課題を主体的に解決するために思考を深め，適切に判断し，工夫し創造する能力を身に付けている。

### ③ 技能・表現

人の一生と家族，子どもの発達と保育，高齢者の生活と福祉，衣食住，消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けている。

### ④ 知識・理解

人の一生と家族，子どもの発達と保育，高齢者の生活と福祉，衣食住，消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を総合的に身に付けている。

## 「家庭総合」の総合評価における各観点の割合

① 関心・意欲・態度	25%程度	② 思考・判断	20%程度
③ 技能・表現	30%程度	④ 知識・理解	25%程度